



言葉の持つ力

登校時、正門にある石に彫られた「市田小学校」の表札の文字を「上手だ！」と、ある児童が感嘆していました。その表札は、接着剤で貼り付けられていますが、一部、取れないように白いボンドで補強した箇所があります。私が「補強した跡だね」と言うと、それを聞いた別の児童が、「補強って何？」と尋ねてきました。「取り付けたけど、更にボンドを使って絶対取れないようにしっかり貼り付けたんだね」と答えました。（ちなみに辞書では、「弱い部分や足りないところを補って強くすること」とあります。）その児童は「そうなんだ」と納得してくれました。一瞬のやり取りですが、私の頭の中はいろいろな事がうごめきました。「間違ったことを教えてしまったら」「わかりやすく伝えること、表現は、どの言葉を選ぼうか」等。また、知らない言葉を尋ねてきたこの児童の知的好奇心に感心もしました。



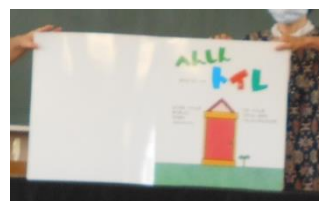
多くの時間を中学校で勤めてきた私にとって、小学校1年生から6年生まですべての児童に、わかるように話をすることは課題であり、言葉遣いや話の内容の選択等、改めて考え直さなければならないことが多くあります。

私たちは、国語や算数のワークや習い事の道具などは、中身や機能をよく吟味してから購入しますが、子供たちにとって一番身近な教材、手本となるべき言葉や言葉遣いについては、それほど意識していないかもしれません。毎日使う言葉だからこそ、相手を思って使うことが大切で、受けとる側を考えて使うことが大切です。この積み重ねが、いじめを撲滅すること、人権感覚を養うことなどにも繋がると考えます。

更に、前述した「知的好奇心」も大切にしたいものです。知的好奇心とは、物事をより深く知りたいと思う気持ちで「うれしい」、「楽しい」と感じ、「もっともっと知りたい」と思う気持ちです。私たちは「知る」、「わかる」、「うれしい」、「楽しい」の積み重ねが学習意欲の土台となります。24日（月）、朗読ボランティアの会のみなさまに3、4年生を対象にお話し会をしていただきました。このお話は「へんしんトイレ」という大きな絵本の読み聞かせがありました。



「へんしんトイレ」という不思議なトイレを使うと、なぜかみんなが変身してしまいます。例えば、まこちゃんが「まこまこまこ…」と言いながら入ると、「…まこまこまこま」、独楽になってしまったり、70才のおばあちゃんがトイレに入ると、17才の女の子に変身してしまう。こんな言葉遊びの絵本ですが、次第に興味を持ち始めた子供たちは、次の言葉から何に変身するか考えはじめました。「次は何か？」知的好奇心がわいてきた瞬間です。トイレを我慢している子が「がまん、がまん、がまん…」と言って入ると「漫画だ。」単純で楽しい絵本ですが、知的好奇心を喚起し、言葉遊びや思考しながら語彙が増えていく、読書はとても大切なんだと改めて思いました。



「この言葉は、子供たちを望ましい成長に導く言葉か」、「子供たちは、かけられた言葉に沿って成長する」、子供たちの成長に大きく影響する言葉、大人を示したいものです。

PTA 資源回収 ～SDGs（持続可能な開発目標）の取組～

5月8日（土）に第1回PTA資源回収が行われました。当日は暖かく、天気も良い中、多くの方にご協力いただき、たくさんの再資源物が集まりました。収益は本校の子供たちのために有効活用させていただきます。



たくさん集まりました。



みなさんで協力しました。

12 つくる責任
つかう責任



SDGs 17の
目標の12

百聞は一見にしかず 自分の目で見て確かめる ～3年社会科校外学習～

5月10日（月）と17日（月）3年生が、社会科の校外学習に行ってきました。学校の周りにある様々なものを自分の目で見て確かめてきました。どの子も、学習という新たな視点で見ることで新たな発見をしたようで、目を輝かせていました。



たくさんの距離を歩きました。それぞれの場所でいろいろ学びました。

自転車教室 ～自分の命は自分で守る～



真剣に聞いています。



上手に乗れました。

5月14日（金）に、3・4年生を対象とした自転車教室が開かれました。「ブタベルサハラ」（ブレーキ、タイヤ、ベル、サドル、ハンドル、ライト）の確認や安全な乗り方など、教えていただき、実践することができました。これからも安全に自転車に乗ってほしいです。

裏面もあります